

年長だより

「今日の朝寒かったね、上着着てきたよ」と季節の変化を感じている子どもたちです。しかし登園時は涼しいものの、外でリレーや鬼ごっこをして元気に遊んでいるうちに「暑い、汗かいた」とスモックを脱いだりお茶休憩をしたりしています。季節の変化を感じつつ、体調管理に気を付けて過ごすことができるようにしていきたいと思います。

『やさしく使ってね』

運動会が終わり、年長組のリレーに興味をもってくれた年中組の子どもたち。「年長組さん、リレー入れて！」と年中組さんが言うと、子どもたちは「いいよ！」と並ぶ場所に誘導したり「線の中には入らないでね」「こっち向きに走るんだよ」と線の中を併走したりしていました。また年少・年中組が『火炎太鼓』を踊っていると「これ貸してあげようか」「バチが割れちゃうからやさしく使ってね」と自分たちのキラキラの手具を貸してあげたり「“よいやっさ”のところは手を上にして太鼓をたたくんだよ」と先生のように振りや動きを言いながら一緒に踊ったりする姿も見られました。年少・年中組が何度も楽しそうに踊っている姿を見て、「火炎太鼓大好きなんだね」「みんなわたしたちのまねっこしているね」と友達同士でつぶやく姿はとても誇らしそうでした。

動物園の遠足のときには、年中組の先生に「年中組さん、バスで遠足に行くの初めてだからドキドキしているんだ」と教えてもらって、「ぼくたちが手をつないで行ってあげるよ」「わたしたちも小さい時手をつないでもらったよね」と張り切り、当日は「お名前なんていうの」と手をつないでいる子にやさしく話しかけたり、横断歩道を渡る時には「青になったから進むよ、気を付けてね」と教えてあげたりする姿が見られました。

このようにいろいろな場面で年長組として、任されたうれしさを味わいながら張り切って取り組む姿が見られます。これからも他学年との触れ合いを通して、大きくなったことを実感しうれしく感じたり、自分たちにできることは何かと考えたり、任されたことを喜びながら取り組み、満足感を味わってほしいと思います。

<年中組との触れ合い>



そうそう！
線の外を走るんだよ



ここまで頑張ってる！

ゆりぐみさんは
何の動物を見に行くの？



小さい組にやさしく教えたり、手をつないだりしています

『〇〇組の特別コースだ！』

動物園に行くことを楽しみにしていた子どもたち。クラスみんなで考えを出し合い、自分たちで目的をもって遠足に出かけてほしいと思い、それぞれのクラスで、見る動物、順番などオリジナルのルートを決めることを教師から提案しました。地図を見ながら「年中組の時は見れなかったからカメとワニが見たいな」「そうしたら、ここで弁当食べることにしよう」と話し合いながら、つき組はキリン、ゾウガメ、フクロテナガザル、シンリンオオカミをメインで見るコース、ほし組はフラミンゴ、ワニ、フクロテナガザルをメインで見るコースに決めました。また、「先生、その地図持って行こうよ」と話す子もいて、一人一人地図を持っていくことにしました。

楽しみにしていた当日、自分たちで地図を見ながら「次は〇〇だよ」「こうやって行くんだよね」と言いながら歩きました。つき組では、「キリンの赤ちゃんいるかな」とワクワクしながら見たり、年中組の時には行かなかった北園の動物をたくさん見たりしました。「フクロテナガザルってすごい声大きいね」「ゾウガメ、ニンジンと白菜食べてる！ぼくたちも食べるやつだ」「面白い口のワニがいるよ」と驚いたことや気付いたことを友達や教師に伝える姿が見られました。ほし組では、「フラミンゴが頭でハートの形作っているよ！」「カワウソさん寒いからくっついて寝ているのかな」と気付いたことを喜んで話していました。昨年行かなかった北園にも行くと、「カメの背中がとがっているからトガリくんって言うんだって」と特徴をよく見たり、「フクロテナガザル『ウォッウォッ』って鳴いてる」「本当だ、『ウォッウォッ』」と一人が鳴き声を真似るとみんなも同じように真似たりして、楽しんでいました。

途中の道で遊園地の前を通ったとき、「ここはみんなで行けないんだよね…」「あ、幼稚園で作って、小さい組さんにも来てもらったら？」という話になりました。クラスの友達と話し合い、遊園地ごっこを始めているところです。

これからも自分たちの生活や行事など、子どもたちが主体的に考え、進めていく中で、クラスの友達とのつながりを感じながら遊びを進めていけるようにし支えていきたいと思っています。

<動物園遠足>

